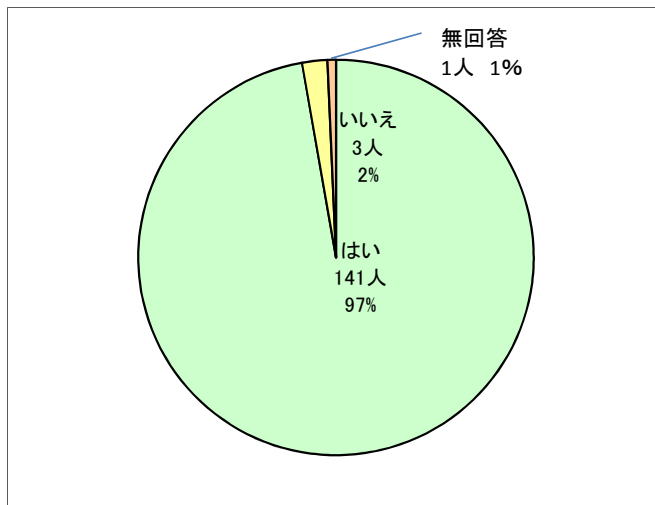


平成28年度第4回 県政モニターアンケート

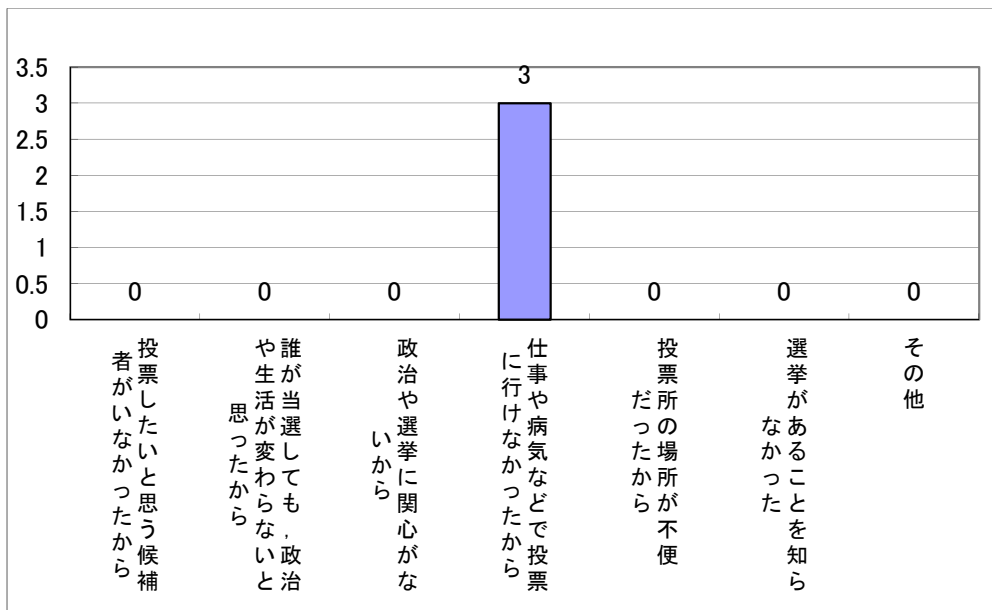
- テーマ 鹿児島県知事選挙における選挙啓発の効果測定について
- 調査目的 鹿児島県選挙管理委員会が平成28年7月10日に実施した第24回参議院議員通常選挙及び鹿児島県知事選挙における各種選挙啓発活動に関する御意見をいただき、投票率向上に向けた今後の選挙啓発活動の参考にするため。
- 調査時期 平成28年7月
- 調査対象数 200人
- 回答者数 146人 73%

問1 投票について

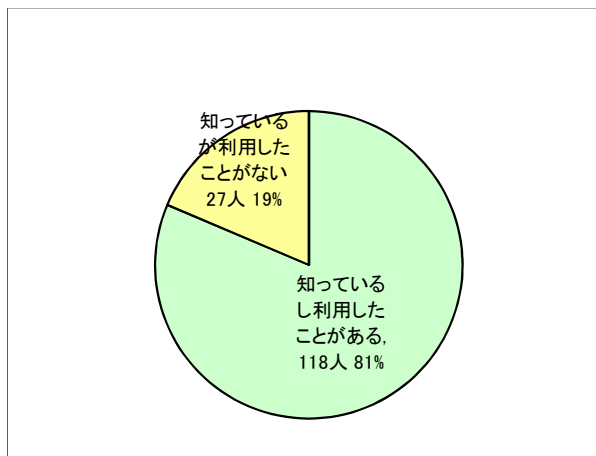
① 今回の知事選挙において投票に行きましたか。



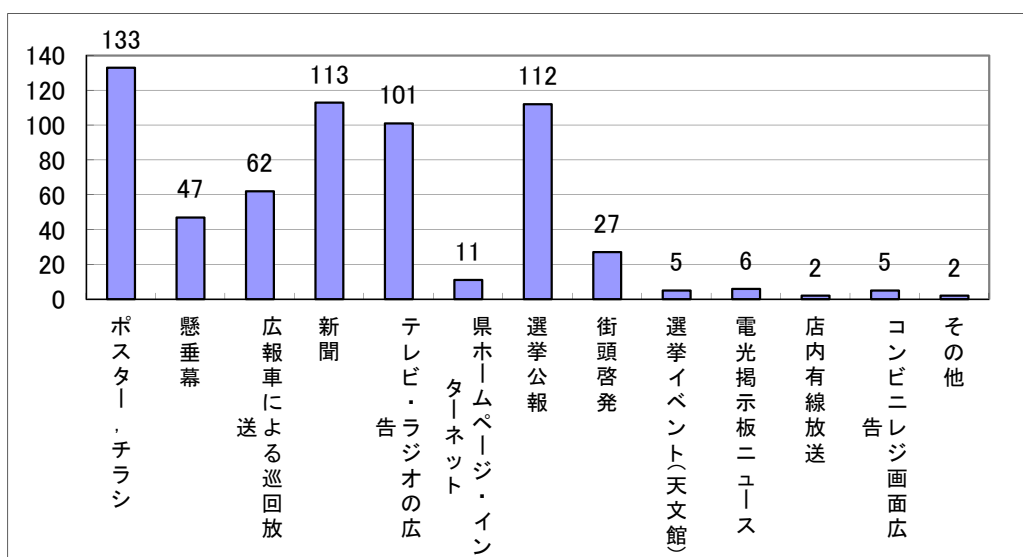
② 投票に行かなかった主な理由



問2 当日投票に行けない人のために「期日前投票制度」がありますが、この制度を知っていますか。



問3 選挙管理委員会が行った選挙啓発で、見たり聞いたりしたものは何ですか。（複数回答可）

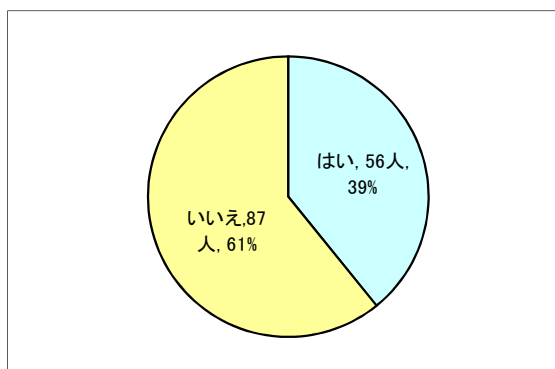


「その他」の内容

- ・広報車、街宣車を見聞したことがない
- ・町内防災無線

問4 啓発ポスターについて

- ① 著名人が起用されていたのを知っていますか。
（今回は鹿児島県出身女優 塗木莉緒さんを起用）



② 著名人の起用について、感想をお聞かせ下さい。

<概要>

- 1 著名人の起用に肯定的な感想 41件
- 2 " 否定的な感想 24件
- 3 上記1, 2以外の感想 31件

1 著名人の起用に肯定的な感想(抜粋)

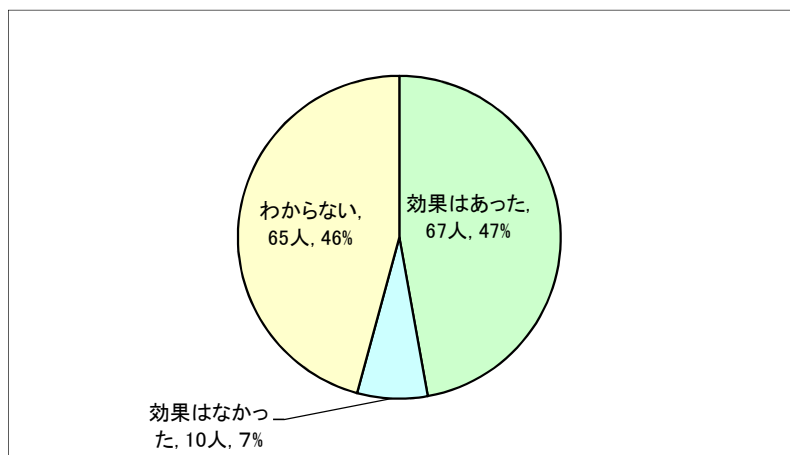
性別	感想
男	関心を持ってもらうための一つの方法としてはよいと思います。
女	かたぐるしい選挙も著名人起用により興味を示してポスターに目が行くのでいい方法だと思う。
男	これからは若い人が活躍する時代であるので、若い人の起用は、選挙への関心を高めることになると思う。
女	塗木さんは鹿児島県出身19歳ということもあり、18・19歳の投票率アップにつながったと思います。
男	著名人は親しみがあリ効果的だと思う。ぐりぶ一ファミリーも県民には親しまれていると思う。(年齢問わず)
女	今回は18歳からの投票開始という事もあり、有名人の若者を起用されたと思います。次回からも県出身者同士の有名人(老若男女)を起用し正しい鹿児島弁でアピールしたらどうでしょうか。
女	親しみやすい県出身者の若者で好感がもてました。

2 著名人の起用に否定的な感想(抜粋)

性別	感想
女	著名人を起用する意味がわからない。選挙ポスターに限った事ではないが、ムダなお金に思える。
女	啓発に対する著名人起用は必要ないでしょう。税金ムダ使いしているようにみえますが。一般の人でよろしいのでは。
女	きれいな人だなと思った。ただ、きれいな人＝選挙というイメージを変えてみては？今回は、20歳から年齢を引き下げたので、それをイメージしたものとか。国費があるからといって、著名人を使うという考えはいかがかと思う。
女	啓発ポスターを見なかった。ラジオ、テレビ等で選挙の事はわかるので、著名人の起用はしなくても良いと思う。多分、著名人を起用するにあたり、県の財源が多く使われたのではないかと思う。他のことに使ってもらいたい。
男	全く知らない方よりは、目を引くが、経費を考えると、特に必要ないと思う。選挙の投票日の文字が目立てばOK。
女	誰であってもそれが選挙に結びつくとは思いません。

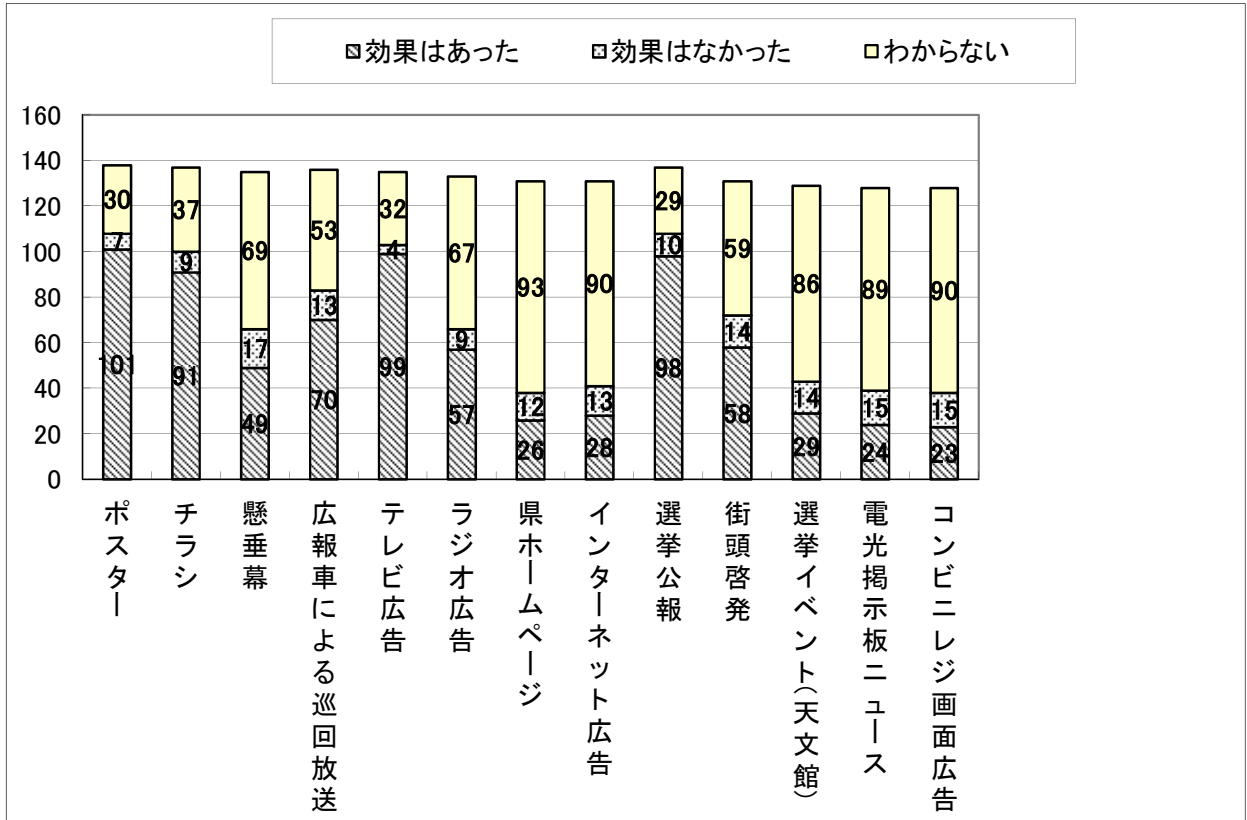
問5 選挙管理委員会が行った選挙啓発の効果についてお考えをお尋ねします。

① 選挙管理委員会が行った選挙啓発は、全体的に捉えて効果があったとお考えでしょうか。



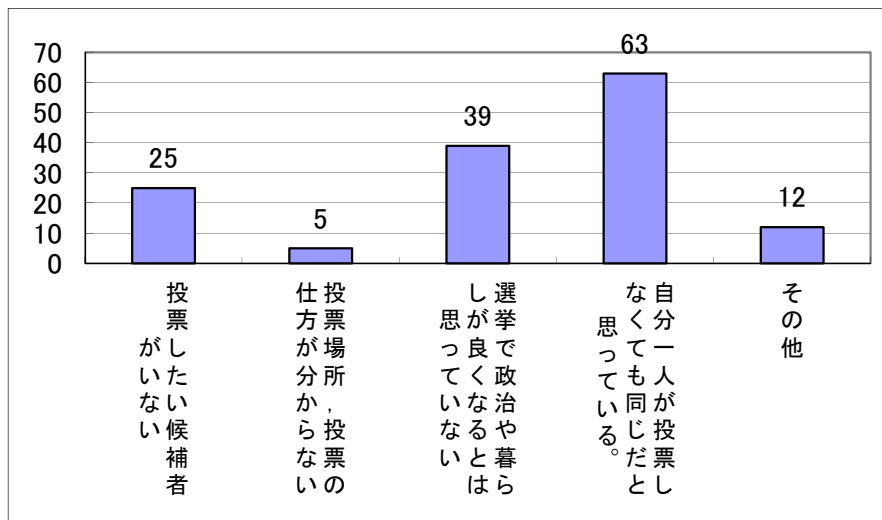
無回答: 4人

② 選挙管理委員会が行った次の選挙啓発は、それぞれ効果があったとお考えでしょうか。



問6 若年層の投票率について

① 若年層を中心に投票率が低迷していますが、その原因は何だと思えますか。



「その他」の原因

- ・原因は幾つもある。それと共に、これまでの教育機関や家庭教育の中で、社会人としての教育が十分されてこなかった事と、個人個人が自意識を持つ努力をしないこと。
- ・日常生活、家庭・学校・職場・地域での政治や選挙の話題が少ない。特にメディアの取り上げ方が過少。
- ・候補者の公約をよく知らない。
- ・政治は難しい、投票をしても同じ、などと決めつけてしまい、自分から知ろうとする努力を怠った人が多いと思う。1票の大切さをわかっていない。

- ・投票に行かなくても直接自分には関係がないと思っているのではないのでしょうか。
- ・選挙への投票行動がそれぞれの生活への大きさを理解していない(平和ボケ)
- ・投票したい候補者がいない, 投票場所, 投票の仕方が分からない, 選挙で政治や暮らしが良くなるとは思っていない, 自分1人が投票しなくても同じだと思っている, 以上のことが原因だと思う。
- ・判断材料がないからだと思う。
- ・テレビはあまり見ないようにしているので, ラジオや新聞広告へもっと掲載して欲しい。
- ・若年層に直接聞いてみたらどうですか。
- ・学校教育で政治(特に現代史)を強化して教えない。政治を考える機会がないまま大人になってしまう。

② 若年層に選挙に関心を持ってもらうためにはどのようなことが効果的だと思いますか。

<概要>

- ・教育(家庭での教育を含む)の充実に関すること 42件
- ・候補者に関すること 21件
- ・啓発方法の工夫に関すること 19件
- ・選挙制度の改善に関すること 9件
- ・その他 18件

意見の一部(抜粋)

性別	意見
女	小学校高学年から中学校の義務教育の中で授業科目のツールとして取り上げたり, 専門家による出前授業など行い, 少しずつ関心をもってもらうようにすればいいのではないかと思う。
女	身近な人(家族・家庭)と, 日常の暮らしについて, 日頃から話をする。子連れの投票, ファミリーで選挙に行く光景が気軽に投票に行くことにつながるのでは。
女	現在の各種団体等の公認, 推進制度等により, 勝負があったかのような印象を受け, 無気力になるのでは。選挙の必要性を教育によって自覚させる。
女	小さいときから世の中のことを考える機会を持たせること。小学生, 中学生, 高校生の頃から家庭や授業でふれていくと, いざ, 自分が18歳になった時, 少なくとも「選挙に行かない」という選択肢はないのではないかと思います。
男	もっと若い人が立候補したらいいのではないか。
女	当選者の方が必死に演説会の時だけでなく, その後, 行動で示し, 地域に結果を残してくれること。頑張ってくれてる姿を見ると, 選びに行こうという意識を持つと思う。
女	昨今, 誰に入れても自分たちの暮らしが直接変わる実感がもてないため, また, 入れたいような魅力ある人がいないことが考えられる。選挙に行き, 選んで暮らしが少しでも変われば皆行くと思う。
女	若年層向けのイベントの中で候補者を招き, 公約を聞き自分たちの未来の為にどのような形で働いてくれるのかをくわしく説明してくれれば人ごとじゃないと感じ必ず選挙に足をはこんでくれると信じる。
男	一票の重みがわかるような具体例を示して, 投票することへの関心を持たせる。
男	テレビ広告, インターネット広告を利用して, もっと分かりやすく身近に考えられるように情報提供するとよい。”選挙”と聞くと難しいイメージがあると思う。
男	投票場所を増やす。「期日前投票」の時間帯を長くする。
男	若年層と同じくらいの年齢の立候補者が出られるよう年齢の見直しが必要ではないか。
男	若年層に選挙に関心を持ってもらうため投票会場に行かずにインターネット, タブレット投票にすれば関心が高まると思います。
女	普段の生活と政治との関わりを知るための環境づくり
男	選挙以前に社会を形成する活動を実践する機会をつくり, それを理論化するような作業を経験させたい。

女	誰がやっても一緒だと政治家を信用していない。政治の信用を取り戻すこと。社会保障等をもっと真剣に議論してほしい。国民の立場になって色々議論すること。
---	---

問7 選挙啓発について御意見・御感想をお聞かせください。

意見の一部(抜粋)

性別	意見
女	テレビ広告や選挙広報紙を少し分かりやすいものにすることができればいいのではないかと思う。鹿児島出身の若手スポーツマン、芸能人、県内のプロサッカーチーム、プロバスケットチームの選手を多く起用する等々。
女	選挙に対する日頃の心構え、子供の頃からの意識付け、きっかけ作りだと思います。
男	新聞・テレビの選挙関連ニュースでほぼ充分と思う。これらをあまり見ない人向けに、各種媒体を用意されていると思う。
女	広報車による巡回放送、街頭啓発の回数をまだ増やすべきではないでしょうか。
女	そんなに力を入れるべき事なのか。お金を使うべき事なのか。選挙権がある事、権利を有している事の幸せを、選挙のなかった時代や国を例えてわからせるようにしていった方がいいと思う。
女	今回の知事選でもわかるように、選挙は一般人に大きな力を与えている事を知らしめること。特に20代、30代の力は、将来を左右する。その力を示すことのできるのが選挙であることを、若い人にしっかりと理解させること。
女	アミュの前で、前日に行っていた活動(大学生が街頭キャンペーン)は、とてもよかったと思います。1人1人の意識を変えていくべきだと思います。
女	選挙に行かなければ、自分にとってマイナスになることがあるとすれば、若年層も行くかもしれません。無関心が多いことが平和であるともとれるし、危機でもあります。選挙には必ず行くこととして、「投票する該当者はいない」という項目を設けることも一つの方法ではないでしょうか。
女	選挙への関心を持たせるために、投票場所を固定せず、人の多く集まるアーケード、デパート、ショッピングセンター等、企業と協力した方が投票率は上がると思う。古い考えもいいが、新しい取組も良いのでは。
女	やはり高校生のうちに授業で模擬選挙を行ったり、政治によって世の中が変わっていくことを教え、自分の一票が大切だと考えさせることが大切だと思います。
男	投票の若者離れがこれ以上進まないように、選挙をより身近に感じられるような啓発を行ってほしい。
女	投票率の高い年配者の待遇がよくなる措置ばかりになることに若者が気づいていません。
男	啓発に頼らず、国民一人ひとりが政治に興味を持ってくれば良いのだが、他人事と思っている方も多いので、今後とも啓発活動は続けてほしい。
男	一票の重さをもっとシビアに、現実・未来の日本がどうなるのかをしっかりと伝えていくべきだと思う。
男	数多い啓発活動を行っている中で、投票率が低いのは政治家や政治に問題もあると思われます。選挙の時だけ「お願いします」には共感できるのが少ないのではないのでしょうか。「襟を正した候補者」がいればアップするのではないのでしょうか。
女	行政としてやれることはやっているのだと思いますし、それでも行かない人は行かないのが実情ではないのでしょうか。もっとも行かない人に限って、何か自分に降りかかった時には大騒ぎしたりするので、あるいは、そこを訴えかけると効果が上がるかもしれませんが。
女	チラシ等が多すぎたり、同じ内容であつたりでありあまり意味がないのがある。
女	車などで広報する以外に人の集まりそうなところで啓発運動をすべき。